

B4教会 | 2024年・9月・22日
シリーズ: 中間の歌: 昇りの歌の研究
タイトル: 神に守られて (詩篇 121)

今日は新しい授業シリーズを始めます。詩篇 120 篇から 134 篇までの「昇りの歌」として知られる、聖書のユニークで豊かな部分を掘り下げていきます。

ユダヤ人の巡礼者たちは、エルサレムに礼拝に近づく旅の途中で、これらの詩篇を歌っていました。

賛美歌は神の民のアイデンティティと信仰を形作るのを助きました。

そして、それらはイエスにとって深い形成的影響を与えました。

ルカによる福音書には、幼いイエスが家族とともに神殿に礼拝に行く場面が記されていますが、これはおそらく、特に過越祭やその他の祭りの巡礼の際に彼らが歌った歌だったのでしょう。

それらは当時と同じように、今日の私たちにとっても重要です。

なぜでしょうか？ ヘブライ語の「上昇」という言葉は、文字通りにも比喩的にも「上る」という意味だからです。

エルサレムは山頂にあるため、巡礼者は物理的に上に向かって旅をしました。これらの写真を見てください:

PIC 1 ([here](#) and on PCO)

PIC 2 ([here](#) and on PCO)

PIC 3 ([here](#) and on PCO)

しかし、「上る」ということは、霊的な上昇、つまり神への礼拝で共に前進することを意味します。

したがって、これらの詩篇は、その旅のためのプレイリストのようなものです。

神の民として共に人生を旅することの意味の本質を捉えています。

私たちがどこへ行き、どのようにそこにたどり着くかについて語っています。

そして、神が「どこへ」と「どのように」を気にかけていることを示しています。

時間と場所の重要性

なぜこれが私たちにとって重要なのでしょうか？

ユダヤ人の巡礼に関する古代の歌になぜ注目するのでしょうか？

なぜなら、神は私たちの目的地と旅を今でも気にかけておられるからです。

神は私たちがどこに行き着くか、そしてどうやってそこにたどり着くかを気にかけておられます。

「昇りの歌」は、私たちの人生の地理、つまり私たちが住む文字通りの場所、私たちが過ごす季節、私たちが進む道が神にとって重要であることを思い出させてくれます。

イエスの世界では、礼拝する共同体とその巡礼は、常に特定の時間と場所に結びついていました。イスラエル人にとって、エルサレムに上ることは、深い精神的意味を持つ具体的で物理的な行為でした。時代や文化の違いにもかかわらず、私たちは彼らとそれを共有しています。

私たちの集まり、つまり礼拝の時間、祈りの夜、会合や聖書の勉強会などは、すべて私たちの「成長」の一部です。

神は私たちの生活の共同空間に特別に存在しています。

そして、神は礼拝、コミュニティ、奉仕のリズムを通して私たちに形を作ります。

現代文化の伝染

これらすべては、地理や物理的な存在からますます切り離されている世界では、さらに重要になります。

私たちは「上に行く」とか一緒に旅をするといった概念を薄めてしまいました。

私たちは自律的な利便性を中心に据えた文化の中で暮らしています。

いつでも何でも注文でき、どこにでも配達してもらえます。

私たちは自宅にいながら、バーチャルな会議に出席し、オンライン サービスを利用しています。

認めます。この便利さには利点があります。私も気に入っています。

しかし、意図しない結果も生じます。

便利さを求めることで、私たちの社会構造が微妙に侵食されます。

近所や教会で共有する絆ですら侵食されます。

神は時間と場所を通して働くということを忘れてしまう危険があります。

便利さのためにコミュニティを犠牲にする危険があります。

また、可能な限り効率と近道を求めて、旅を回避してしまうリスクもあります。

教会でも、私たちは便利さに夢中になり、意味のあることを追求するよりも、簡単なことで妥協してしまうことがあります。

これは私たちの信仰と精神形成に大きな影響を与えます。

礼拝のために集まること、

共有の空間でお互いに一緒にいること、これが重要なのです。

話し:

先週の日曜日、私はハーバードから来た若い男性に会いました。彼は1年以上オンラインの礼拝に参加していました。彼は説教のメモやスクリーンショットを見せてくれましたが、彼が熱心に取り組んでいることは明らかでした。しかし、先週の日曜日は彼が実際に礼拝に参加したのは2回目だったのですが、彼から発せられる喜びは驚くべきものでした。彼は私と一緒に自撮りを撮ってほしいとさえ言ってきました。私たちが話している間、彼は決心したと話してくれました。これからは実際に礼拝に参加すると。なぜでしょうか？それは、一緒に「上る」ことが大切だという深い真実を彼が体験したからです。

旅は私たちにとっても神にとっても大切なのです。

僕たちの旅の助け: 詩篇 121

これが今日の焦点です。

— 最初の昇りの歌の一つ、詩篇 121 篇。

旅の途中で助けを求める歌です。

「昇る」とき、私たちは独りで行くのではないということを思い出させてくれます。

テキストを読んでみましょう:

詩篇 121:1-7 口語訳

昇りの歌

“わたしは山にむかって目をあげる。わが助けは、どこから来るであろうか。わが助けは、天と地を造られた主から来る。主はあなたの足の動かされるのをゆるされない。あなたを守る者はまどろむことがない。見よ、イスラエルを守る者はまどろむこともなく、眠ることもない。主はあなたを守る者、主はあなたの右の手をおおう陰である。昼は太陽があなたを撃つことなく、夜は月があなたを撃つことはない。主はあなたを守って、すべての災を免れさせ、またあなたの命を守られる。”

詩篇 121 は、「わたしの助けはどこから来るのか」という質問で始まります。これは単なる修辭的な質問ではなく、深く内省的な質問です。

この質問をする前に、詩篇作者は山々を見上げ、それが助けの源なのか、それとも危険の源なのかを考えます。

古代イスラエルでは、山は両方でした。

山は避難所であると同時に、盜賊の隠れ場所でもありました。

ですから、詩篇作者の質問には緊張感があります。

不安と期待が入り混じったものです。

人生はたいていそんな感じではないでしょうか。

私たちはイエスに希望を持ちながら人生を歩んでいきます。

しかし、不安も伴いますが、困難は旅の一部であることを知っています。

話し:

たとえば、新しい子供が生まれると、私たちは期待と不安の両方を感じます。孫娘のフィアが40時間もの長い陣痛の末に生まれたときのことを覚えています。祖父になるという期待は圧倒的でしたが、陣痛が長引くにつれて不安も大きくなりました。ありがたいことにフィアは健康に生まれましたが、待っている間、私は不安と期待の両方を感じながら、神に助けを求めて叫びました。

詩篇作者は2節でこの緊張を解消し、次のように宣言しています。
「わたしの助けは、天地の造り主である主から来る。」

注意してください。これは単なる助けではありません。一般的な助けではありません。非個人的な助けではありません。すべてを創造した方からの助けです。

ここでの「助け」を表すヘブライ語はエゼルです。聖書では神の救いの力を表すためによく使われます。創世記でイブをアダムの「助け手」として表現するのに使われているのと同じ言葉です。しかし、多くの場合、神をイスラエルの救出者として表現しています。私たちの旅の間中、神は私たちのエゼル、私たちの力強い助け手です。

神は僕たちを見守っておられる
詩篇が続くにつれ、焦点は移ります。
作者はもはや一人で考えていません。
2番目の声が入り、安心感を与えます。
「彼はあなたの足を滑らせません。彼は...まどろむことも眠ることもありません。」

これは、神が神の民の旅から遠く離れたり、切り離されたりしていないことを強く思い出させます。
神は常に私たちと共にいて、私たちを見守っています。
神は常に警戒しており、常に私たちに気を配っています。

これらの節を読むたびに、私はイエスのことを考えます。

福音書では、イエスが弟子たちを見守っているのがわかります。たとえ彼らが気づいていないときでも。

マルコの福音書から思い浮かぶ物語が一つあります。
第6章では、イエスは弟子たちをガリラヤ湖の向こうに先に行かせます。
その夜、彼らは嵐と格闘しています。
その間、イエスは山から彼らを見守っています！
イエスは山で眠っていません。
祈りながら彼らに目を光らせています。

イエスは彼らが困っているのを見ると、水の上を歩きます。
彼らはイエスを見ます。彼らは恐怖と苦悩の中で叫びます。
すぐにイエスは船に乗り、嵐を静めます。

イエスは遠くに留まりませんでした。山に留まりませんでした。
イエスは彼らの嵐の混乱の中に入り、平和をもたらしました。

同じように、イエスは私たちの嵐、私たちの苦闘、私たちの旅の中に入り、平和をもたらしてくれます。私たちがイエスに叫び求めるなら。
イエスは常に私たちの見張り役です。

主はあなたの陰である
詩篇はさらに個人的な言葉で表現されます。
「主はあなたの右の手にある陰です。」

これは単に太陽の熱から物理的に守ってくれるということではありません。
これは神の親密な配慮の比喻です。
古代では、日陰は貴重なものであり、焼けつくような暑さからの救いでした。
神は私たちにそのような救いを与えてくれます。身体的な害からだけでなく、人生で直面する感情的、精神的な「暑さ」からも救いを与えてくれます。

話し：
私はマーク・ニクラス牧師を通してこのようなケアを経験しました。
私たちは何十年も友人でしたが、忙しい生活の中で少し疎遠になっていました。

ある日、神は私に再び神とつながるように促し、私がそうしたとき、抱えていた深い傷を分かち合うことができました。マークは耳を傾け、私の痛みを癒しをもたらす方法で再構築してくれました。彼は、私が傷つく原因となった弱さもまた贈り物であり、神に返すことができるものだとして思い出させてくれました。その瞬間、マークは神が与えてくれた日陰のようで、自責の念の熱から私を守ってくれました。

詩篇作者は続けてこう言います。「主はあなたをすべての災いから守ってくださる...」この約束について考えるとき、次の点に注意することが重要です。「災い」はしばしば「悪」と翻訳されます。これは創世記 2 章の「善悪を知る者」と同じ言葉です。

私はこのことを考えながら、神に尋ねました。「あなたはどのようにして私を悪から守ってくださったのですか？」

話し：
彼は、カウンセラーと交わした大切な会話を思い出させてくれました。私は、父がいつも弟のそばにいるように思えたことを嘆いていました。それは、2人しか入れない輪のようでした。その弟は今、とてもつらい時期を過ごしています。それは見苦しいものです。悪魔が弟を破滅させようとしています。父は、何年も前からその可能性に気づいていたと思います。だから、父は全力を尽くして弟を抱きしめ、守ろうとしたのです。そして、カウンセラーはこう言いました。「あなたがその輪の中にいなかったのは、神が弟が受けた悪からあなたを守ってくれたからではないかと思ったことはありませんか？」

兄が受けた害は、その輪に入るための代償でした。神は私をその苦しみから救ってくれました。神は私を悪から守ってくれました。

その保護は、肉体的にも精神的にも私たちに苦痛を与えるものすべてを含むわけではありませんが、神は私たちを滅ぼそうとする悪と戦います。

最後の励まし (鍵はこちら)

今日を締めくくるにあたり、次のことを皆さんに伝えたいと思います。

神は皆さんがどこへ向かうのかを気にかけておられます。

神は個人として、また教会コミュニティの一員として、皆さんの旅を気にかけておられます。

主は常にあなたの「出入り」を見守っておられます。

ですから、主を見つめ直してください。

あなたの信仰の源であり完成者であるイエスに目を留めてください。

あなたの生活のリズム、礼拝のために集まることが重荷のように感じられる瞬間、祈りが義務のように感じられる瞬間に注意を払ってください。

聖霊にあなたの心を探っていただき、主の御前に喜びの場へと導いてくださるようお願いしてください。

私たちは一緒にこの旅をしています。

そして、一緒に上っていくのは素晴らしいことです。

孤立してはいけません。

コミュニティを利便性と交換してはいけません。

周りの人々の顔に神の配慮を求めることを恐れないでください。ほとんどの場合、あなたが必要とする助けは、神があなたの人生に置いた賢明で敬虔な人々を通してもたらされます。

ですから、神が私たちの歩みを常に見守ってくれると信じて、一緒に進み続けましょう。

一緒に祈りましょう。

祈禱チーム、「去らないで...」